

## 第 8 3 回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成 15 年 2 月 7 日(金) 13:30～16:30

場所：八重洲センタービル会議室

出席者：委員長 大崎（東京大）

副委員長 北野（JR 東海）

委員 苅田（科学技術振興事業団）、古関（東京大）、藤原（JR 東海）、牧（東海大）、  
村本（東洋電機製造）、山田（金沢大）、渡部（富士電機総研）、  
海老原（武蔵工業大）、楡井（長野高専）、渡辺（FDK）

幹事 水野（信州大）

幹事補佐 真田（大阪府立大）、鳥居（武蔵工業大）

### 提出資料

- 83-1 第 82 回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 83-2 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 83-3 平成 14・15 年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 83-4 LD 技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（案）（真田幹事補佐）
- 83-5 東部丘陵線の HSST Linimo お目見え（真田幹事補佐）
- 83-6 平成 14 年度優秀論文発表賞受賞候補者一覧（大崎委員長）
- 83-7 LDIA2003 FINAL CALL FOR PAPERS（大崎委員長）
- 83-8 第 15 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム概要（山田委員）
- 83-9 リニアドライブ技術委員会平成 15 年度活動計画（大崎委員長）
- 83-10 超電導浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会設置趣意書（案）（北野副委員長）
- 83-11 「D 部門技術委員会統廃合 WG 報告」資料に対する LD 技術委員会委員からの意見（大崎委員長）
- 83-12 産業用リニア駆動システムの評価技術調査専門委員会（TLP）活動報告（水野幹事）
- 83-13 汎用リニアドライブにおけるサーボ制御とセンサ技術調査専門委員会（SEL）活動報告（渡辺委員）
- 83-14 多次元ドライブシステム調査専門委員会（MDD）活動報告（海老原委員）
- 83-15 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会（LMD）活動報告（楡井委員）
- 83-16 磁気支持応用機器におけるダイナミクス調査専門委員会（MLV）活動報告（村井幹事）
- 83-17 第 10 回 産業用リニア駆動システムの評価技術調査専門委員会 議事録（水野幹事）
- 83-18 第 9 回 汎用リニアドライブにおけるサーボ制御とセンサ技術調査専門委員会 議事録（渡辺委員）
- 83-19 第 4 回 多次元ドライブシステム調査専門委員会 議事録（海老原委員）
- 83-20 第 1 回 磁気支持応用機器におけるダイナミクス調査専門委員会 議事録（村井幹事）
- 83-21 第 4 回 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会 議事録（楡井委員）

### 議事

#### 1 議事録確認

資料 83-1 を用いて議事録確認を行い、議事 3.3「次回再度検討する」を「メール審議にて検討する」に訂正の上、承認された。

#### 2 報告事項

2.1 資料 83-2 を用いて、委員会名簿の確認を行った。

2.2 資料 83-3 を用いて、平成 14・15 年度各委員会の予定を確認し、以下の修正があった。

- (1) LD 研究会：10 月の予定を「10/9,10」に変更、11 月の予定を「11/27,28 神戸」及び「12/?」に変更
- (2) LMD 委員会：4/14, 6/11, 9/19, 11/13, 12/16, 2/16 の開催予定を追加
- (3) MDD 委員会：4/11, 6/13, 8/20, 10/10, 12/12 の開催予定を追加
- (4) 新委員会名称を XXX 委(仮称)から MEL 委に変更

2.3 資料 83-4 を用いて、資料提出スケジュールについての確認が行われた。

2.4 北野副委員長より、1月に開催されたASC/SA/LD合同研究会について、発表<sup>32?</sup>82件、参加者約100名との報告があった。また、古関委員より、12月に開催されたLD研究会について、発表16件、参加者38名との報告があった。

2.5 資料83-5を用いて、技術委員会で予定しているHSST見学についての説明があった。5または6月に、大江の実験線での新車両の試乗と、東部丘陵線建設現場の見学を行うこととし、今後スケジュールを詰めることとした。

2.6 資料83-6を用いて、LD研究会での優秀論文発表賞候補についての説明があり、上位2名を推薦することとした。

2.7 資料83-7を用いて、LDIA2003の論文募集についての案内があった。締切が2月末に延長されたこと、現状で65件の申し込み中、日本から16件との説明が行われた。関連して、出席委員で把握できる申込数についての調査が行われ、技術委員会全体に対してアンケート調査を実施することとした。

### 3 審議事項

3.1 山田委員より、資料83-8を用いて、「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウムの準備状況について、現在の申込数が153件で、これからプログラム編成を行うとの説明があった。基調講演をあと1~2件増やしたいとの希望があり、セッション構成を基本としてテーマを選定し、依頼することとした。

3.2 大崎委員長より、資料83-9を用いて、平成15年度の活動計画についての説明があった。産業応用フォーラムを、SEL委主催で、技術報告を基に年内に行うこととした。関連して、フォーラムの開催形態について、現状の単独開催は維持が困難である、シンポジウム等に併設のチュートリアルや講習会として実施し、セッション中にはめ込む形にしてはどうか、研究会との併設はどうか、全国大会やD部門大会のシンポジウムとの兼ね合いはどう考えるべきか等の意見があった。これについて、各調査専門委員会で可能性について議論してほしいとの要請があった。

3.3 北野副委員長より、資料83-10を用いて、超電導浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会の設置趣意書案について、回数は年6回とし、これまでの集大成という位置付けであるとの説明が行われた。委員の交替と新委員の追加が必要との指摘があり、次回最終的に検討することとした。

3.4 大崎委員長より、資料83-11を用いて、部門技術委員会統廃合についての各委員の意見を集約した結果の報告があった。加えて、全部門横並びで考えるのはどうか、D部門独自の方向性や運営方法があってもよいのではないか、R&D委員会という名称はどうか、これでもうまく機能するという説得力がない、産業界でのプレゼンスと重要性が問われる、等の意見が出された。

3.5 大崎委員長より、LDIA2003実行委員長のProf. Howeの、次回LDIA開催についての私見の紹介があった。次回も日本以外で開催されることが本来望ましいが、開催希望がない場合に日本で引き受けることも視野に入れながら、次回以降について検討することとした。次回または次次回に日本で開催する場合の予定地として、神戸が提案された。

### 4 各調査専門委員会活動報告

資料83-12~83-21を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

以上